

みんなの夢を詰め込んだ

半田市中心市街地コンセプトブック

CONCEPT BOOK

つむぐ・つなげる・つくる
3つタウン



Central
City area

みんなで描いた半田市中心市街地の 実現したいまちの姿

VISION

つむぐ・つなげる・つくる
3つタウン



「半田市の中心市街地に行く理由や目的がない」

まちづくりワークショップでたくさん聞かれた言葉です。

一方で、急速に人口が減少する日本社会において、中心市街地は地域を支え、持続的な半田市につなげる場なくてはなりません。

知多半島の中心に位置し、多様なヒト・コト・モノの結節点として発展してきた半田市中心市街地の価値観や文化をつむぎ、ヒト・コト・モノをつなげ、未来を自分たちの手でつくっていく。



ハードやモノではなく、「ヒト」を起点としてとらえ、チャレンジを応援し、ヒトやコトを育て、やがてそれがまちの魅力になっていく。

まちに来たくなる、居たくなる理由も目的もたくさん詰まった、カラフルでキラキラとした半田市中心市街地であり続けることが、私たちの想いです。

行動指針

過去から未来へ想いを

つむぐ

ヒトとヒト、ヒトとコトを

つなげる

私たちが新たに

つくる

CONCEPT



文化や伝統を大切にし、未来へつむぐ

地域が大切にしているものと今をつむぎながら、未来の価値を創造する。

持続的な仕事や産業を育み、未来へつむぐ

地域で働ける。地域を支える産業がある。チャレンジできる。
地域と暮らしを持続的にする経済の環境づくり。

まちなか暮らしの魅力発信で、ヒト・コトをつなげる

個性豊かなお店や活動、暮らしの情報など、様々なまちなかの魅力を発信することで、まちに人を集め、交流や新たなコミュニティ形成を促進する。

知多半島の多様なヒト・コト・モノ・地域をつなげる

半田市中心市街地はあらゆるものの結節点であり知多半島南部への玄関口。
個性豊かな人々、魅力的な活動、歴史と文化を有機的につなぎ、新たな価値を生み出す。

ワクワクとうるおいのある暮らしをつくる

やりたいことが実現できる喜び。心地よい環境とそれを楽しむ新たなライフスタイル。
半田市中心市街地での暮らしの豊かさを語り合いながら、新たに魅力をつくっていく。

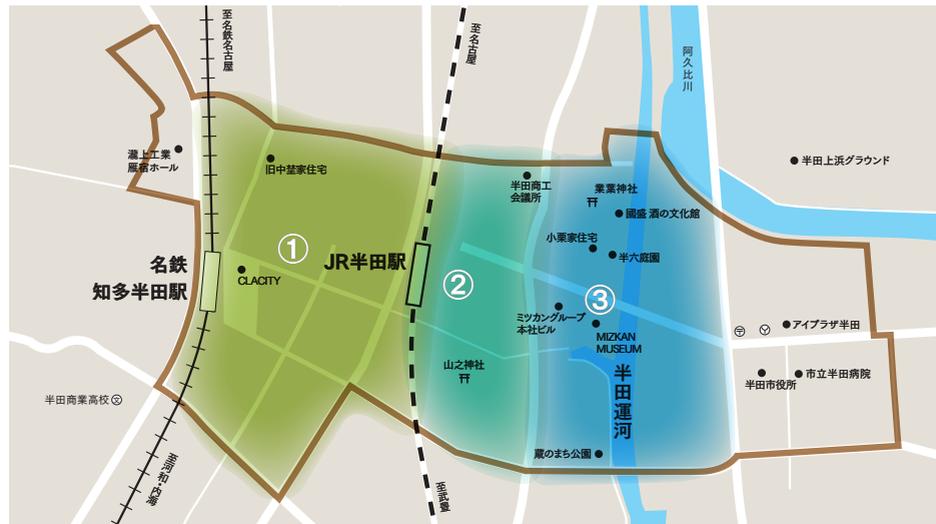
自分たちでつくる。共につくる。ヒトが起点となる

自分たちのまちだから、人任せにせず自分たちで共につくる。
そんな人達がまちの魅力となってコンテンツ化し、さらに人を惹きつける。

半田市中心市街地のエリアの特徴

エリアの特性に合わせたまちづくりを

半田市の中心市街地のエリアイメージを深めていくと、個性の強い3つのエリアが浮かび上がってきました。わたしたちは、それぞれエリアの個性を大切にしつつ、民と公の得意なことを組み合わせ、中心市街地全体の活性化を目指します。



各エリアが異なる特徴を持っています

① 知多半田エリア

昭和からの知多半島の賑わいの中心。土地区画整理により、道路やバスロータリーが整備され、病院、金融機関、習い事、美容など、多世代が暮らしやすい都市機能が集約されています。2つの鉄道駅に挟まれ、低未利用地の余白に可能性があるエリアです。



② JR半田エリア

明治から昭和にかけての商業の中心地。現在は昭和レトロなお店や古民家を活用する動きが徐々に起ころいはじめてきました。知多半田エリアと半田運河エリアを結ぶ結節点として、いろいろなヒト・コト・モノが交流するエリアです。



③ 半田運河エリア

江戸時代に醸造業・海運業で栄え、整備された黒壁の空間や水辺の心地よさに人が集まる歴史と文化のエリア。市民にとってはシビックプライドを感じられ、市外からも非日常な雰囲気を楽しむにきたくなるエリアです。



みんなで描いた各エリアの実現したいまちの姿

知多半田エリア

人とコトを自然とつなぐ
セントラルパーク

つむぐ

つなげる

つくる

JR半田エリア

暮らす人と訪れる人、
これまでとこれからが、
ゆるやかに、つながるエリア。

半田運河エリア

半田運河からひらく
文化産業の湊





① 知多半田エリア

VISION | 実現したいまちの姿

人とコトを自然とつなぐセントラルパーク

CONCEPT | 実現するための方向性

体験や挑戦の場づくり

教えたい・はじめたい・売りたい・知りたい・創業したい etc...
 新たなチャレンジを地域のプラットフォームで応援。
 みんなの「○○したい」が集まり、応援しあいながら実現していきます。

心地いい空間づくり

多様な人にとって「自分の居場所がある」という心地いい環境。
 気持ちとエネルギーが高まり、自ずと新しいことをしたくなる。
 たくさんの「○○できる」空間をつくります。

多様な人たちの接点づくり

知多半島中の何かコトを起こしたいアンテナの立った人たちの接点。
 人の魅力に引き寄せられ、つながることで、新たな仕事・暮らし・
 楽しみなどの価値を生み出します。

身近に緑を感じる暮らしづくり

四季を感じ、自然とともに暮らせるまちを目指します。
 何をしてもなく気持ちのいいつらぎを。

みんなで楽しみ、取り組むまちづくり

自分たちの暮らし・仕事・楽しみで実現したいことを自分ごと
 にして、知恵も汗も出しながら、楽しんで取り組んでいきます。



- まちなかでこんなことできたらいいな...の例**
- 01 やりたいことをプロデュースするもよし、たからずさずもよし
 - 02 学校終了子供たちが騒ぎ出す屋敷がけで集まる、店主はまちの寛容の先生
 - 03 仮職時期になると食べ頃ツクをする人と味わう人が取れる
 - 04 車が来ない安心な空間で、集ったり、休んだり、多様な活動ができる通り、美味しいお店が多くてついつい食べ歩きすぎちゃう
 - 05 地元の人も旅行者もあつまるので、ここに来ればたぐさんの情報が得られる
 - 06 セトコトが育つ場所、新しいことがここから生まれる
 - 07 地域のいいものを遊ぶ・育む文化、地域内で経済が循環する
 - 08 緑化特区は、土が露出しては自由な草花で緑化してもいいエリアに、センス良く緑化する脚色が登場
 - 09 ここは知多半島の南の玄関口、国内の旅行者もインバウンド旅行者も
 - 10 細い道地が入り組んだエリアはまちの景観でさえアート作品のよう
 - 11 古商家には若手アーティストと芸術文化が育つ、いつか世界にはばたくアーティストへ
 - 12 寂寥感としての意遣いを感じる、普段着の人もふらっと行って、情報交換できる、ここはまさに出会いの道場



③ 半田運河エリア

VISION | 実現したいまちの姿

半田運河から発く文化産業の湊

CONCEPT | 実現するための方向性

歴史を發く

まちの発展の礎となってきた半田運河の歴史を紐解き、半田市民として誇りに思える活動や発信をするまちになりたい。

産業を發く

文化を軸とする企業活動・事業者活動に伴走するまちづくり支援があり、文化産業のまちとして発展するまちになりたい。

人を發く

学びや人との出会いがあり、文化をテーマとした活動家・起業家（文化起業家）が次々に生まれるような、伴走するまちづくりで発展するまちになりたい。

暮らしを發く

景観、環境、営み、生活など、他にはないこの地ならではの魅力的な暮らしの風景が発信されるようなまちになりたい。



※この未来図は、中心市街地を軸に魅力の新しいイメージを持つまちだが、未来のまちをイメージしたもので、必ずしも場所など特定するものではありません。

マップの中心市街地は10分圏内をいります。詳しくはこちら。

どうして中心市街地活性化を目指すの？

Q. なんで中心市街地の活性化をするの？

A. 郊外部も含めて、持続可能な半田市をつくるため



1

これからは

コンパクト+ネットワークなまちづくり
持続可能な半田市へ

これからの半田市の活性化に向けては、「さまざまな人にとって多様な目的があり、日常的に行きたくなる場となること」が鍵となりますが、そのためにまず半田市中心市街地に機能をコンパクトに集中させ、地域の担い手を増やしていく機能をつくることで、市内各所への波及効果を増大させていくことが求められます。



直面する問題・課題

- ・人口の急激な減少
- ・消費力の減退
- ・地価の低下 など

市の収入が減る

生活を支えるインフラや
行政サービスに影響が出る

生活環境や
地域の持続性の低下へ…

どんどん不安になる未来…？

2

“つむぎ・つなぎ・つくる”先には

暮らしやすい! 過ごしやすい!
働きやすい!
行きたくなる魅力いっぱい!



市民とまちの活力に

行政サービスの維持

生活環境、地域の魅力を守る

3

みんなで力を合わせて

幸せに暮らせる、選ばれる半田市へ!!



もうすぐJR半田駅が高架化する! 行政・鉄道・金融機関など、機能が集まっている中心市街地(まちの顔)を活性化しよう!

どうやってやるの？

「まちづくり」には、はじめからたくさんのお金と労力が必要だと思いがち。

日々トレンドも変わるし、失敗するのも怖い…

だからこそ、「小さくはじめて、大きく育てる」という考え方が必要です。

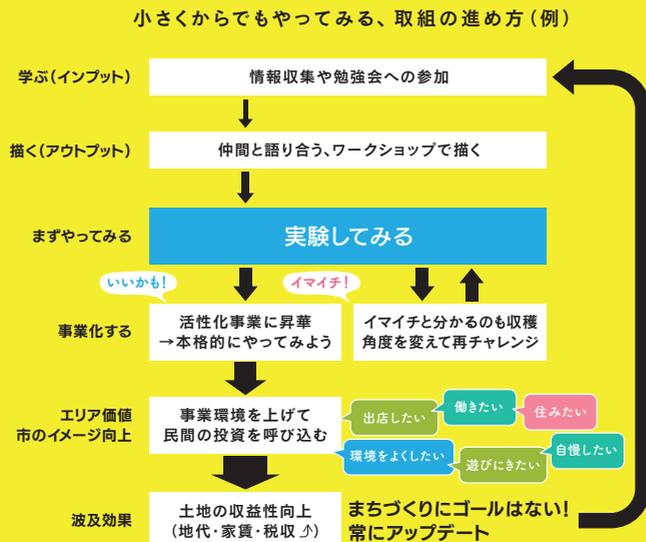
“まず小さくからでもやってみる”

そのような取組があちこちで生まれる半田市中心市街地をみんなで一緒に作りましょう。



少子高齢社会においても
コンパクト+ネットワークで
選ばれ、愛され、次世代へ
つなげられるまちに

エリア価値向上で得た利益を
エリア価値向上のために再投資して
より地域の力を高める



／PICK UP／

こんな取組が生まれています



「楽しいを創出」～ゆるく、本気で、あそべ!!～

セミナー・ワークショップをうけて、何かやってみようと思えたり、半田運河でお茶を飲んでまったりしたり、おしゃべりしたり、ちいさな妄想を実行しました。一人が活動したといろいろな人が集まってくる。みんなが好きなものを持ち寄って、半田運河が居心地のいい場所となりました。



「みんなで学ぶ機会を」緑豊かなまちになるように

ワークショップを通じて描いたまちの未来図に近づくように、まずは学ぶところからスタート。自分たちで企画して、講師を呼んで、仲間を集めて。まちに緑を増やすための考え方をインプットして、これからみんなで活動をはじめます。

思い描くことの持つ力

前に進む力はと思ったら手に入れられるでしょう。

それは、現実ばかりにとらわれず、将来ありたい姿を描くこと。独りではなく、共感しあいながら作り上げていくことです。それは夢や目標となり、すぐにはかなえられないとしても、できること・したいことを持ち寄り、実践を積み重ねて行くことでやがて素敵な半田の物語となるでしょう。

思い描くことの持つ力を忘れずに、希望も可能性もつむいでいける。数々の物語が生まれる。そんな中心市街地にしていきましょう。



半田市中心市街地活性化
市長特任顧問 伊藤大海

制作の軌跡

みんなで描いた軌跡をご紹介します。

住民・事業者・行政などの立場が異なる方々が参加した「未来図づくりワークショップ」にて、各々が大切にしたい価値観やこの先のありたい姿、実現したい暮らし方などを伝えあい、みんなの想いを掛け合わせて半田市の中心市街地の未来を描きました。



中心市街地として大切にしたいことを考え、コンセプトやキーワードを導き出しました。



エリアの特徴を活かして実現したいことを考えながら、未来図を描きました。



中心市街地の価値観の構成

3つタウン

(半田市中心市街地共有の価値観)



(それぞれのエリアの個性)

半田市中心市街地の統計

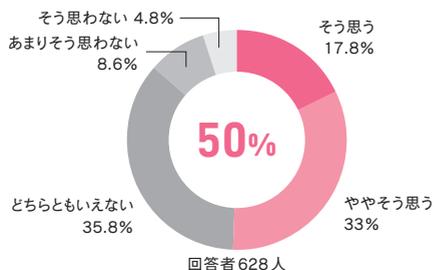
◎ 居住人口

中心市街地の居住人口は微増しています。子育て世代なども増加しており、まちなかへの需要が高まっています。一方で、市全体の高齢化率は増加を続けており、コンパクト+ネットワークのまちづくりが求められます。

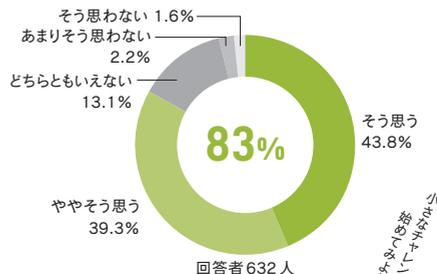


◎ 市民アンケート

Q. まちの発展のための積極的な活動を推奨して、
絶えず地域への再投資に繋げるべき



Q. まちなかの過ごし方がよくなるなら、
変化は受け入れていきたい



令和5年度中心市街地活性化に関する市民アンケート結果より

魅力的なまちなかにしていきたいという声



まちづくり共創プラットフォームの図



中心市街地活性化協議会は地域で活動している民間事業者や市民などで構成し、
行政と連携しながら自分たちのまちの事を自分たちで決めていくための組織です。

半田市中心市街地でチャレンジしてみたいことがある方はこちらへご連絡ください。

TEL 0569-84-0634 (半田市 市民経済部 産業課)

Mail sangyo@city.handa.lg.jp

半田市中心市街地活性化情報
Webサイト(半田市)



コンセプトブック発刊に寄せて



半田市長 久世孝宏

とどまらぬ日本の人口減少により、全国でも地域の持続性への警鐘がより大きくなされている時代です。また、既存のルールが適用しなくなった激動の新型コロナ期。大きな打撃を受けた社会は、変化と創造で対応し、乗り越えようとしています。

そのような中で「選ばれる半田市」を実現し、将来にわたって半田市の暮らし、産業、歴史、文化を持続・継承・創造していくまちづくりは、現代を生きる私たちの使命です。中心市街地活性化はそのような持続的な地域経営の仕組づくりには欠かせない取組ですが、行政だけでは実現できません。民と公が共に将来像や目標を共有し、役割や資源を持ち寄り、共創していくことが必要です。

このコンセプトブックは、「未来図づくりワークショップ」に自ら手をあげて参加した、まちづくりに想いを持った市民や事業者の皆さんが、時間と労力をかけてつくった半田市中心市街地への夢を詰め込んだ未来の設計図であり、羅針盤です。きっと、人々の活力と魅力あふれるまちの風景ができるものと信じています。



半田らしさのDNA



半田の春まつり
半田の祭りは春の訪れを告げる

知多半島の中央に位置する半田市は、江戸時代から醸造業や海運業で栄えてきました。

半田運河周辺には、半田を支えた豪商たちの歴史を残す建物。JR半田駅周辺には、古き良き面影を残す建物や東海道本線の建設を支えた武豊線。名鉄知多半田駅周辺には、知多半島のライフスタイルをリードしてきた商店街や商業施設の記憶。高度経済成長期まで半田市の中心市街地は、他地域からの人々が多く来訪し交流する商都の核でした。

脈々と育まれた新しいことに積極的に挑戦する起業家精神、そして、市民が守り、受け継いできた山車文化に象徴される市民力や地域のコミュニティの強さ。

暮らし、仕事、文化、交流。つむぎ、つなげる、つくる。それが半田市中心市街地のDNAなのです。



JR半田駅前
駅前の御幸通りはかつて花街だった



銀座本町
ここに来れば何でも揃った戦後の銀座本町



名鉄知多半田駅前
アーケードのある通りが特徴的だった半田市中心商店街

※画像提供：半田市立博物館



半田運河
半田運河を中心として古くから繁栄してきた



みんなの夢を詰め込んだ

半田市中心市街地コンセプトブック

CONCEPT BOOK

- 発行 | 愛知県半田市
- 発行日 | 令和6年3月
- 運営・編集 | 未来図づくりワークショップにご参加いただいたみなさま
一般社団法人はんだのたね
株式会社スペース
特定非営利活動法人半田市観光協会
半田市中心市街地活性化協議会設立準備会